

発行 大田区議会 〒144-8621 大田区蒲田五丁目13番14号
 電話 03-5744-1474(直通) ホームページ <http://www.city.ota.tokyo.jp/gikai/>



羽田の祭り【場所】弁天橋付近

一般会計補正予算(第1次)を可決

(仮称) 東糀谷四丁目公園整備工事実施設計委託費など

1億1,494万8千円を増額

大田区議会は、平成20年第2回定例会を6月5日から16日までの12日間の会期で開きました。本会議第1日の区長あいさつの後、6名の議員が会派を代表して質問を行いました。第2日には10名の議員が一般質問を行いました。(2～5面に要旨を掲載)

この定例会には、平成20年度一般会計補正予算(第1次)のほか、大田区手数料条例の一部を改正する条例をはじめとする条例案5件、(6～7面に請願・陳情の結果を掲載)

皆様から提出された請願・陳情は関係委員会で審査した結果、採択2件、不採択13件、そのほかは継続審査となりました。

定款の一部変更1件、工事請負契約6件、消防ポンプの購入1件、報告議案7件、委員会提出議案として意見書1件が提出され、審議の結果すべて原案どおり可決しました。(6面に定例会で決まった議案を掲載)

第2回定例会の内容

- 6月5日 本会議(第1日)
- 6月6日 本会議(第2日)
- 6月9日 常任委員会
- 6月10日 常任委員会
- 6月11日 議会運営委員会
- 6月12日 特別委員会
- 6月16日 本会議(第3日)

第3回定例会の予定

- 9月18日 本会議(第1日)
- 9月19日 本会議(第2日)
- 9月22日 常任委員会
- 9月24日 常任委員会
- 9月25日 議会運営委員会
- 9月26日 特別委員会
- 9月30日 本会議(第3日)
- 10月1日 委員会
- 10月2日 委員会
- 10月3日 決算特別委員会
- 10月6日 決算特別委員会
- 10月9日 本会議(第4日)

第8回平和祈念コンサート

■入場料(全席指定): 2,000円

■チケット
 大田区民ホール・アプリコ : 5744-1600
 大田区民プラザ : 3750-1611
 大田文化の森 : 3772-0700
 実行委員会事務局 : 5744-1640

■出演
 クラウン少女合唱団
 flumus(フルムス)
 (レディースオーケストラ)
 すがはら やすのり(ゲスト)
 中川 貴美子(ヴァイオリン)

■無料保育
 要予約。詳細は大田区議会事務局まで(申込締切日: 8月8日)。

■問合せ 大田区議会事務局 : 5744-1472

主催●大田区議会全議員による「平和祈念コンサート実行委員会」

表 永年勤続 表彰

大田区議会は、6月6日の本会議において、区議会議員として在職25年にわたり、区政の発展のために尽力された功績に対し、近藤忠夫議員を表彰いたしました。

○第3回定例会に付託予定の請願・陳情の締め切りは、第1次分が9月10日(水)、第2次分が9月18日(木)の予定です。

区政をきく 代表質問

区民への思いやりにあふれた区政の実現を

大田区議会公明党 飯田 茂

〈民間出身区長の改革〉

- 区政に思い通りの成果を挙げる事ができたか。
- 現状を十分踏まえながら、マニフェストの実現に努め、着実にその歩を進めてきた。
- 新基本構想・計画が策定された場合、現行の個別計画との整合性と継続性は。

● 既存計画の把握や精査を行うとともに、改定を含めた見直し作業を行っていく。

● 区長がテレビなどで大田区をPRする効果は大きく、今後もトップセールスを行うべきと考えるがいかがか。

● 羽田空港を擁し、産業や文化が豊かなまちとして積極的にアピールし、区民の皆さまにも、様々な機会をとらえてお話をしていく。

〈温暖化防止対策〉

● 区有施設で成果を上げていく対策について伺う。

● 空調の適正温度設定や、昼休み時の消灯や節水など



新宿小学校芝生校庭

● 省エネの徹底と考える。

● 「大田区役所エコオフィス推進プラン」第2次計画のCO2削減目標の達成状況は。

● 18年度に達成した。

● 施設保全システムを「大田区役所エコオフィス推進プラン」に活用できないか。

● データをフィードバックする中で、各施設のエネルギー節約の徹底を図る。

● 商店街と連携し、打ち水大会を企画してはどうかか。

● 地域イベントなどで雨水等を持ち寄り打ち水をする事は可能と考える。

● 学校施設の屋上・壁面緑化、校庭芝生化計画を伺う。

● コスト面に配慮しつつ、計画的に進めていく。

● 小中学校での学習、特に体験学習について伺う。

● 環境問題を学習する単元がある。省エネ活動のほか、

● 大気・河川調査やまちの清掃を行う学校もある。

● 食の安全対策

● 中国産冷凍餃子問題について、区で有機リン中毒が疑われる事例はあったのか。

● 事例はなかった。

● 食品の苦情届出について、夜間・休日の緊急体制は。

● 東京都医療機関案内サービス

● 東京都医療機関案内サービスの通報を受け、保健所

が状況に応じて現場に出動し調査する。

● 食品衛生監視員の充実、強化について、考えを伺う。

● よりリスクの高い施設を重点的に監視し、効果的・効率的な体制を図る。

● 食の安全情報コーナーを常設してはどうかか。

● 総合的観点から検討する。

● 福祉施設の待機者対策

● 特別養護老人ホーム、老人保健施設、認知症高齢者グループホームの待機者数を伺う。

● 各々、194人、約600人、70人である。老人保健施設、グループホームは延べ数となっている。

● 保育園の待機者解消の見通しについて伺う。

● 新設、改築による定員増で一定程度の解消を期待。

● 特別養護老人ホームの増設と待機者解消策を伺う。

● 都とともに財政的に支援し整備を進めてきた。民間法人による整備を支援する中で、待機者解消に努める。

● 次の10年に向けた基本計画の福祉施設整備は、待機者数を十二分に考慮すべき。

● 大きな財政負担を伴ったため、適切な目標設定を掲げて基本計画を策定していく。

〈区の教育施策〉

● 新教育改革推進プランは、区の特徴を十分反映すべき。

● 地域企業との協働や職場体験の充実を図るとともに、国際感覚に富んだ児童・生徒の育成に努めていく。

● 教員にパソコンを貸与する計画と、その効果を伺う。

● 配備時期は10月、初期導入費用は1億3千万円。1、300台余りの増設により、魅力ある教材を提供し、授業の質を向上させ、事務の軽減と効率化を図る。

● 保護者、地域住民、専門家などで構成される「学校支援地域本部」の今後は。

● 子どもと接する時間を増やし教育活動の充実を図る。

● 駅のパリアフリー化

● 区民が多く利用する五反田駅改修工事が着手手だが、

● 年度内に着手予定と聞いている。大規模改修のため供用開始は24年度末を予定。

● 平和鳥駅のエレベーター、トイレ設置について、京急への申し入れ内容を伺う。

● 早期のバリアフリー化実現を強く要請してきた。

● 平和鳥駅の計画は具体化しているのか。

● 21年度整備に向けて検討中と聞いている。



京浜急行線上下り線 仮立体化

制度の周知と低所得者への十分な配慮が必要と考える。

● 大田区の産業について

● 区の産業政策への思いについて伺う。

● 区の産業の持続的な発展への支援が、産業政策の役割と認識している。

● 区の産業に関する実態調査報告書を受けての今後の振興策の展望は。

● 製造業の減少やサービスの増加といった構造変化の結果を受け、産業振興基本戦略を策定中である。区の産業のあるべき姿や政策の方向性を明確にし、課題への対応を図っていく。

● 臨海部のものづくりの活用を面として考えることは。

● 今後、区内の成長企業の拠点、区外企業の誘致など、企業の集積強化を施策の中で検討していく。

● 区の産学連携のプロデュースと、国や都との連携について伺う。

● 産業振興協会で、区内製造業者が大学などの連携で研究開発促進の支援策を実施している。また、国や都の助成で、共同研究や新製品開発の支援を進め、区内企業を強化していく。

● 大田区の観光について

● 都と広域的に観光の視点で仕掛ける考えはあるか。

● 品川・大田の広域観光まちづくり推進協議会（仮称）の設立準備作業中。21年度から、取り組む予定。

● 区内で出産可能な医療機関の数は。

● 2年前は13施設、現在は8施設である。

● 救急医療として分岐に対応できる病院の数は。

● 4病院である。

● 産科医不足を生じている原因についての認識は。

● 帝王切開手術で、業務上過失致死で逮捕された事件があり、その後、産科医が激減したと聞いている。

● 大田の教育について

● 都教委の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の順位結果について伺う。

● 本区が学力水準で下位のグループに属しているのは大変に遺憾なことである。

● 海老取川の護岸整備計画は、跡地側は親水性を持たせた計画とし、具体的整備は区の要望を踏まえて行うべきと考える。所見を伺う。

● 都が河川法に基づく河川整備計画を策定中である。今後も、跡地利用と一体性のある護岸整備が行われるよう都と連携する。

● 跡地を区が購入する場合、都に財政支援を求めている。区長の考えを伺う。

● 20年5月、都に跡地の一括取得を申し入れた。都が取得しない場合、区が可能なら取り得る考えであり財政的支援も文書で要請した。空港国際化を2年後に控え、時間はまったなしである。

● 跡地処分後の上下水道整備と管理は都が行うべき。

● 教える側は調査結果を意識すべきだと思うが。

● 下位グループからの脱出のため、教育施策の中で基礎学力の向上、定着を最重要項目とし、改善策の充実強化を図っていく。

● 3年続けて低水準に甘んじているこの差をどう考え、今後どうあるべきか。

● 学力向上のため実効性の高い方策を打ち出していく。

● 私立中学への進学率の推移を見て何を感じるか。

● 区立小中学校が、魅力あるものになるよう、教育力を発揮し子どもの成長を支える協働の形を作っていく。

● 豊かで安全な大田区を

大田区議会自民党 海老澤 信吉

● 空港跡地

● 海老取川の護岸整備計画は、跡地側は親水性を持たせた計画とし、具体的整備は区の要望を踏まえて行うべきと考える。所見を伺う。

● 都が河川法に基づく河川整備計画を策定中である。今後も、跡地利用と一体性のある護岸整備が行われるよう都と連携する。

● 跡地を区が購入する場合、都に財政支援を求めている。区長の考えを伺う。

● 20年5月、都に跡地の一括取得を申し入れた。都が取得しない場合、区が可能なら取り得る考えであり財政的支援も文書で要請した。空港国際化を2年後に控え、時間はまったなしである。

● 跡地処分後の上下水道整備と管理は都が行うべき。

● 京急連続立体事業

● 京急連続立体事業

● 京急連続立体事業



羽田空港

道路、関連側道整備。第一京浜国道アンダーパス工事等、区長の感想と意気込みを聞く。

◎進捗よく率は19年度末で約6割である。環八付近の上り線が仮立体化され、目に見えない形の事業進捗を力強く感じている。24年度高架化完了、関連側道等整備を含め26年度完成を目指し今後も努力する。アンダーパス工事は早期完成を要望する。駅周辺のまちづくりは京急蒲田西口地区も都市計画決定を目指す。

＜防災対策＞

◎区政に関する世論調査では「防災対策」が第2位である。大規模地震発生時の被害を最小限にとどめるうえで建物耐震化は重要課題であり、積極的な取り組みが求められる。区内小中学校の耐震化は完了したが、未着手の区建築物も早急に耐震化を図るべき。今後の対策を伺う。

後期高齢者医療制度廃止、暮らし守る区政へ

日本共産党大田区議員 藤原 幸雄

＜後期高齢者医療制度＞

◎制度の中止・撤回を国に求めるべきではないか。

◎急速に進展していく高齢社会を考えると、重要な制度と考えている。国は、様々な見直しを検討しており、区は、動向を見守りながら、適切に対処していく。今後、丁寧な説明に努め、必要なことは広域連合を通じて伝えていく。

＜融資制度について＞

◎指摘のとおりであり、今後、区の基本計画を策定し、計画的に耐震化を進める。耐震化が十分でない特別出張所は区耐震改修促進計画に基づき27年度まで耐震化率100%を目標に取り組み。◎大規模な災害発生時、自治体が行うことは、人員の確保である。対策本部の設置を始め、初動態勢の要となる。しっかりと参集体制が必要でないか。抜き打ちで参集訓練を実施しては。◎毎年、阪神・淡路大震災前後に緊急非常配備職員を対象に初動態勢確立の参集訓練を行っている。20年度態勢の見直しを行った。実践的な初動態勢確立のため、抜き打ちの参集訓練実施も考えている。災害時こそが、区民や行政の力が試されると言われる。区全体にわたる体制を構築しなければならぬ。その意味で緊急防災態勢の訓練は非常に大事と認識している。

いくことは慎重に対応する必要があり、現在、経費負担補助は考えていない。

＜高齢者の孤独死問題＞

◎現状を打開するため、以前廃止された「おはよう訪問」を復活すべきでは。◎各支援事業や地域活動により孤独死を防ぐとともに、今後も体制を検討していく。復活は考えていない。

＜羽田空港＞

◎跡地の取得について、区が都に要請したことは評価できるが、その内容が、「区が購入する場合は財政支援を求めるとなっている。都と国の責任で跡地を区民に返すべきと考えるが。◎都が購入すべきと認識しているが、国際化が迫つた今、双方の態度を明らかにすることが課題の早期解決に必要と考え申し入れた。



区内の商店街

◎国土交通省と協議していくべきと考える。◎直前ではあるが、説明を受けている。◎航空機増便は、騒音、交通問題につながるため、抗議すべきではないか。◎国際線の拡充に伴う課題について、国土交通省と協議していくべきと考える。◎糞谷駅前再開発事業◎準備組合の事務所費や活動費を区が負担する理由は。◎「大田区京浜急行沿線の再開発推進団体に對する補助金交付要綱」に基づき支出している。◎住民間で意見がきつ抗している中で、計画区域内駐輪場の土地の地権者である区は、中立であるべきでは。◎区は、事業を進めている立場から対応している。◎区は、京浜急行に對し、駅構内にトイレとエレベーターを設置することを強く求め、場所や工事開始時期を利用者や地域住民に周知すべきと考えるが。◎京浜急行は、駅のバリアフリー化を21年度に実施する予定で検討をしている。詳細については、明確になり次第周知する。◎地上デジタル放送◎政府に對して、高齢者や母子家庭など非課税世帯へのチューナー購入費助成等を行うよう申し入れすべき。◎総務省において支援策を検討しており、本年夏ごろまでに一定の結論を出す予定と聞いている。◎区でも、必要な助成対策などについて調査・準備をしておくべきと考えるが。◎国で検討中の支援策の動向を注意深く見守っていく。

後期高齢者医療制度、メタボ検診について

大田区議会民主党 都野 圭子

＜基本構想審議会＞

◎審議会により多くの区民が参加できるような工夫をしたらどうか。◎基本構想案案について、区民意見公募手続(パブリックコメント)を実施した。

＜後期高齢者医療制度＞

◎年齢で区切った医療制度は、世界にも例を見ない。国会には廃止法案が提出された。区はこの制度に對する考え方を聞く。◎現在の高齢化社会が急速に進展している中で、高齢者の医療を持続可能なものにしていくためには、制度的な対応が必要である。制度の周知を十分に行い、低所得者に対する十分な配慮が大切である。

＜制度開始時の問合せ内容と相談件数及び被保険者証の交付状況＞

◎問合せ件数は、4月16日現在で、約7千件。相談内容は、被保険者証の未着及び支払い方法が大多数であった。被保険者証の交付状況は、5月28日現在59,362件である。

＜特定健康診査等＞

◎いわゆるメタボ検診と言われる特定健康診査が始まるが、従来から実施されていた生活習慣病基本健康診査の受診率の推移はどうか。◎17年度における大田区の受診率は39.8%であり、23区平均受診率61.5%と比較して、かなり低い状況だったところから、19年度までに61.5%と大幅に上昇した。

＜保健指導をする行政センターの医師や保健師の体制＞

◎保健指導をする行政センターの医師や保健師の体制は十分か。◎20年度からの実施に向け、保健師を増員した。◎行政センターの指導だけでなく、民間のフィットネスクラブなどの連携も効果的ではないか。◎今年度は、区が直接対応するが、利用率の推移から、民間との連携も視野に入れ、利用率向上の方策を考えていく。



大田区役所本庁舎

環境・まちづくり・健康に区の果たすべき役割

ネット・無所属・自由連合 奈須 利江

＜焼却と温暖化ガス増＞

◎プラスチック焼却による予想外の温暖化ガス増大に区としての責任をどう認識するか。横浜市のプラの資源化費と23区の焼却費と比べ資源化が高いと言えない。プラを資源化し温暖化ガスを抑制すべきでは。◎可燃ごみのプラスチックの割合増大は事実。他区や区の試算から収集・運搬に多額の経費が掛かる。引き続き検討していく。

＜サームリサイクルにより運搬業務が減少した雇上会社と23区が協議した代替業務の区への影響を伺う＞

◎区に直接影響はないが23区共通の問題。取り組みが必要と考えている。◎ごみ処理に係る情報提供が不十分。検討段階でも中間報告すべき。◎差し支えない限り速やかに伝えていく。

＜西馬込車両工場跡地＞

◎民間開発により建築紛争が起きた場合、区は関係無きと言えるか。事業者決定前に、区民要望や区の方針を都に出すべき。◎区民の要望に沿うよう事業提案を注視し、対応する。◎跡地は準工業地域。住居用途ならトラブルを避ける



ごみ集積所

ご覧ください本会議インターネット中継
本会議の録画映像を区議会のホームページでご覧いただけます。また、本会議を録画したビデオテープの視聴も受け付けていますので、ご利用ください。

◎国の動向を見極めていく。◎アスベストが原因で亡くなった方の救済のための周知や相談体制の取り組みは。◎保健所健康推進課が窓口となり相談体制充実を図る。◎文書保存と情報公開◎大森北一丁目開発の応募書類は「著作権」をたてに全面非開示。著作権は限定的にするべき。区の著作権の範囲について伺う。◎募集要項により著作権は応募者に帰属するとした。◎当初からの土地交換・調査報告・選定議事録などは、50年の定期借地権期間と終了後も、区民に説明するために保存すべきでは。◎土地交換の契約文書は永久保存としている。

一般質問

大田区議会公明党 岡元 由美

〈住宅の耐震化〉

- ◎総合危険度が高い地域の耐震化を進め、戸別訪問をして予備診断を促しては。
- ◎有効な方策の一つと考え前向きに検討する。

- ◎「認定保育所・指定保育料補助金」
- ◎認可保育所保育料との格差を縮めるため補助金も所得に応じた額に拡大すべき。
- ◎負担軽減策が必要か他区の例も参考に検討する。

〈AEDについて〉

- ◎休日、区内各地でのイベント開催時の貸し出し用 AED の拡大を強く要望する。
- ◎現在は考えていないが、今後の研究課題とする。

- ◎設置場所を示すマークを館内図やエレベーター内に表示してはどうか。
- ◎施設管理者に依頼をして

- ◎表示は今後検討する。

〈大森駅バリアフリー化〉

- ◎駅北側のホームにエスカレーター設置を。区から JR に働きかけて頂きたい。
- ◎駅利用者の利便向上のため改めて JR 等と検討する。
- ◎馬込車両工場跡地活用とまちづくり
- ◎環境の確保に配慮したまちづくりの形とは。

- ◎緑の空間は都の「東京における自然の保護と回復に関する条例」以上のものを考えている。オープンスペースも広い空間を期待して

- ◎いる。緑のネットワーク形成は緑道整備を進める。
- ◎多様な世代が集うコミュニティ豊かな拠点形成とは。
- ◎地域の区民の方も利用可能な「集いの場」ができることを期待しており、事業者提案を注視していく。

- ◎「地域と調和した景観と防災機能の創出」について、区が考える防災機能とは。
- ◎災害時の区民の一時避難所などの活用を考えている。



自由民主党大田区議団 鈴木 隆之

〈海辺の有効活用〉

- ◎羽田の天空橋に係留されている小型船舶を、災害時の救助活動に活用すべきと考えるが、いかがか。
- ◎種々の被害状況を想定しながら、舟艇の有効な活用方法を研究していく。
- ◎空港内のトンネルが、台風の影響から水没し車両が立ち往生する問題について、国土交通省の改善策を伺う。
- ◎台風の荒波による影響を防ぐため、護岸の高さを上げたと聞いている。
- ◎多摩川大橋の広域災害拠点にたい積した砂を除去しているが、トンネル付近に

- ◎運び、砂浜をつくれぬか。
- ◎場所、維持管理など、様々な課題が予想されるため、今後研究していく。
- ◎空港跡地に植林を行うことは、環境保護の観点から必要と考えるがいかがか。
- ◎跡地利用計画のなかで十分に考慮していく。
- ◎福祉・介護について
- ◎区の要介護認定の現状は。
- ◎認定調査の実施は、区職員によるものが65%である。委託による調査について、ケアマネ事業者が増加傾向にある。19年度の申請件数は、転入者を除くと、2万6,700件余りであった。
- ◎厚生労働省の調査項目に該当しないケースについて、区としての対応を伺う。
- ◎判定時の特記事項欄や医師意見書に記載された状況を参考にして対応している。非該当と判定された方にも、一般的な区施策の案内を行い、利用を促めている。
- ◎病気や怪我の回復後も入院している社会的入院者の人数は。また、その対策を伺う。
- ◎人数は、正確に把握できない状況だが、数百人程度と考えられる。区としては、介護保険サービスの活用、施設整備を進めていく。



- ◎単身の高齢者と若者の共同生活を推進する考えを持つた団体に対して、区としての協力ができないか。
- ◎区内のボランティア団体に対して活動資金や立ち上げ資金を助成している。今後とも地域での福祉活動を積極的に支援していく。

- ◎「高齢者支え合いネットワーク事業」に向け、よりきめ細かな見守り対策を考えていく必要があるのでは。
- ◎この事業は、大変重要と考えており、高齢者支え合いネットワークの整備については、よりきめ細やかなサービスを展開するため鋭意検討していく。
- ◎発光ダイオードの利用
- ◎二酸化炭素削減のため、公共施設の照明器具として発光ダイオードの積極的利用を図るべきでは。
- ◎新しい技術であり、公共建築物で採用した事例はまだない。その有効性を総合的に見定め検討していく。
- ◎発光ダイオードの街路灯への採用についてどのような考えを持っているのか。
- ◎休日における、転入・転居・転出、戸籍の証明等の窓口サービスの拡大について生じる様々な課題に前向きに対応していく。
- ◎医療・産科について
- ◎安心して健診・出産できる体制を作るため、どのような改善策を考えているか。
- ◎20年2月に、地域完結型医療の実現として、入院医療の問題点を検討する入院医療協議会が立ち上がった。この場を通じ、あらゆる改善策実現に向けて努力を継続していく。

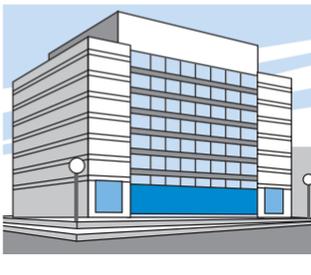
- ◎大規模施設には効果的であり、研究していく。
- ◎答弁の重み
- ◎議会の提案に対して「検討する」と答弁しているが、本当に実行されているのか。
- ◎議会の提案を受け、検討し、対応していく。



〈ひとり暮らし高齢者〉

- ◎「高齢者支え合いネットワーク事業」に向け、よりきめ細かな見守り対策を考えていく必要があるのでは。
- ◎この事業は、大変重要と考えており、高齢者支え合いネットワークの整備については、よりきめ細やかなサービスを展開するため鋭意検討していく。
- ◎発光ダイオードの利用
- ◎二酸化炭素削減のため、公共施設の照明器具として発光ダイオードの積極的利用を図るべきでは。
- ◎新しい技術であり、公共建築物で採用した事例はまだない。その有効性を総合的に見定め検討していく。
- ◎発光ダイオードの街路灯への採用についてどのような考えを持っているのか。
- ◎休日における、転入・転居・転出、戸籍の証明等の窓口サービスの拡大について生じる様々な課題に前向きに対応していく。
- ◎医療・産科について
- ◎安心して健診・出産できる体制を作るため、どのような改善策を考えているか。
- ◎20年2月に、地域完結型医療の実現として、入院医療の問題点を検討する入院医療協議会が立ち上がった。この場を通じ、あらゆる改善策実現に向けて努力を継続していく。

- ◎大田区議会民主党 柳ヶ瀬 裕文
- ◎原油・原材料の高騰
- ◎企業収益悪化により、来年度の歳入が非常に苦しいと予想されるが、対応策は。
- ◎着実な財源確保と適切な予算編成、執行に取り組む
- ◎公共工事を円滑に進めるため、適切な市場価格を反映した単価で積算すべき。
- ◎単価の変動幅が大きい場合は適宜改正する。
- ◎「単品スライド条項」を契約に適用してはどうか。
- ◎国や都の動向を参考に対応していく。
- ◎入札制度改革が遅れているのではないか。
- ◎早期に検討結果を示すため、鋭意努力をしている。
- ◎建築確認審査の遅れ
- ◎建築基準法改正により、審査期間が長期化する現状について、区の認識を伺う。
- ◎設計、審査双方が不慣れであったことや、審査項目の増加から長期化を招いたが、現在は短縮傾向にある。
- ◎審査担当部署に人員増を。状況に応じて行っていく。
- ◎窓口業務の民間委託は。検討していきたい。
- ◎省エネルギー対策
- ◎公共施設にエスコ事業を導入してはどうか。



大田区議会自民党 押見 隆太

〈職員が働く環境の充実〉

- ◎この一年、暗中模索の中で、新区長としての改革の進めよう具合を伺う。
- ◎国際化、情報化、多様化

- ◎大規模施設には効果的であり、研究していく。
- ◎答弁の重み
- ◎議会の提案に対して「検討する」と答弁しているが、本当に実行されているのか。
- ◎議会の提案を受け、検討し、対応していく。

社会民主党・大田区民の会 西村 健志郎

〈懸念の保育料階層見直し、改善等福祉施策財源に一般競争入札による歳出削減を。入札制度を順次見直す。〉

- ◎現行の委託料の積算基準の高過ぎる人工費直間比率、例えば2ha級公園新設実施設計委託直接経費の120%もの間接経費、さらに20%もの技術経費を上乗せする問題の認識と解決策を。
- ◎高いという意見も、認識。
- ◎基幹系システムの再構築、維持管理費削減の具体策は。
- ◎システムインテグレーションの最大限活用、WBS（作業細分化）人工階層管理表導入等により削減に努める。
- ◎導入については、広告収入により、税金の投入を抑えるような施策を提案すべきと考えるが、いかがか。
- ◎今後のワークシヨップや地域検討会において、十分検討して、実現につなげていきたいと考えている。
- ◎羽田空港跡地
- ◎新しい環状八号線が計画されているが、現在の環状八号線はどうなるのか。
- ◎現在の弁天橋とのルートは新環状八号線にも確保すべきと認識し、国土交通省や都と十分に協議していく。

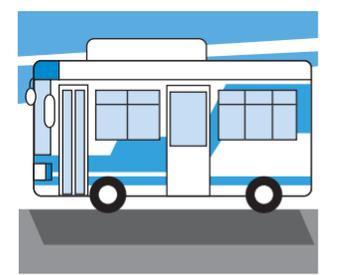
- ◎大規模施設には効果的であり、研究していく。
- ◎答弁の重み
- ◎議会の提案に対して「検討する」と答弁しているが、本当に実行されているのか。
- ◎議会の提案を受け、検討し、対応していく。

大田区議会自民党 押見 隆太

〈職員が働く環境の充実〉

- ◎この一年、暗中模索の中で、新区長としての改革の進めよう具合を伺う。
- ◎国際化、情報化、多様化

- ◎大規模施設には効果的であり、研究していく。
- ◎答弁の重み
- ◎議会の提案に対して「検討する」と答弁しているが、本当に実行されているのか。
- ◎議会の提案を受け、検討し、対応していく。



- ◎環状八号線の通りに緑や水辺空間を形成すべきでは
- ◎「羽田空港跡地利用計画」で環境との共生を目指した空間形成を検討している。
- ◎「鶴の木特別出張所改築」
- ◎ソーラーパネルを屋上に設置し、地球環境に優しい施設を目指してはどうか
- ◎太陽光発電を導入し、省電力・省エネルギー化を図り、地球環境に配慮した建物になるよう対応する。

大田区議会自民党

岸田 哲治

- ◎地球温暖化対策
- ◎区民一人ひとりが二酸化炭素排出量削減を意識するための区の取り組みを伺う
- ◎地域協議会で、啓発活動を検討していく。
- ◎コンビニ、飲食店の営業時間短縮、レジ袋廃止、有料化を検討してはどうか
- ◎地域協議会の議論の素材として提供していく。
- ◎資源循環型社会形成
- ◎ゴミの焼却は最小限にして、分別を徹底すべきでは
- ◎費用対効果を踏まえ検討し、分別の徹底に努める。
- ◎古紙回収の抜き取り防止を強く取り締まるべきでは
- ◎早期回収による防止策のほか、パトロールにより抑止効果が働くと考えている
- ◎「自然エネルギーの活用」
- ◎区施設に新技術を取り入れ、温暖化ガス排出量の削減に努めるべきと考えるが
- ◎建て替えを行う施設に取り入れ成果を検証する。合わせて、ヒートポンプ機器や高効率照明器具を採用し、

- ◎一層の対策を推進していく
- ◎CO₂削減のため、生垣助成、雨水利用貯水補助など更なる充実を図るべき。
- ◎地球温暖化対策という新たな視点で研究していく。
- ◎新技術を導入する際の補助を検討すべきでは
- ◎都で太陽光発電導入助成を検討しているため、動向を見ながら検討していく。



大田区議会緑の党 野呂 恵子

- ◎子育て支援について
- ◎児童館職員等の見直しは
- ◎多面的に検討していく
- ◎障害児の学童保育利用を6年生まで拡充しては
- ◎利用状況や他施策との関連も含め、研究課題とする
- ◎都の支援事業を活用し、1歳児の待機児解消を
- ◎私立保育園に働きかけ、待機児解消に努めていく
- ◎企業所内保育所の設置支援について伺う
- ◎他区の事業の推移を参考



- にし、研究していく。
- ◎食育指導を行う区立保育士の給食導入の進み具合は
- ◎7月から幼児クラス担当職員に給食提供実施予定

大田区議会民主党

森 愛

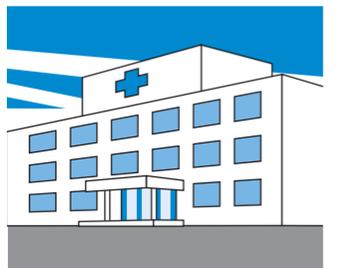
- ◎大田区でのエネルギー自給率を高める取り組み
- ◎現在、特別出張所で回収している廃油を環境面からバイオ燃料化しては
- ◎回収PRに努め検討する
- ◎都の環境部局と連携し、工業高校教育と産学協働で環境貢献指数を出しては
- ◎今後の研究課題としたい
- ◎コミュニティバス・区の公用車としてバイオディーゼル車を導入しては
- ◎住民協力が不可欠であり、今後の課題として検討する
- ◎19年における区内の家庭での自然エネルギー導入件数と助成利用実績は
- ◎区にはエネルギー導入助成制度がなく把握していない
- ◎区のエネギー消費量削減の具体的取り組みは
- ◎6月下旬に地球温暖化対策の地域協議会を設置し、行動指針を策定する
- ◎ものづくり大田区として、環境技術開発助成と活用は産業育成からも有効と考える
- ◎区自身が自然エネルギー

- ◎環境技術の拠点となる支援を行う
- ◎13年度から実施している新製品・技術開発支援事業を活用して環境問題への貢献や支援をする
- ◎海のある自治体大田区
- ◎好立地を活かしてきていない。大田市場との連携、港や海辺の整備を進めては
- ◎地域資源の有効活用、相互に機能連携した総合的なまちづくりが必要と考える

日本共産党大田区議団

金子 悦子

- ◎後期高齢者医療制度
- ◎区独自の保険料減免を、検討すべきではないのか
- ◎国では見直しを検討中であり、区単独での減免は考えていない
- ◎資格証を発行しないと区が宣言してはどうか
- ◎制度運営における保険料納付の重要性についてご理解いただきたい
- ◎医療費負担を無料にすることを検討すべき
- ◎医療費の助成は検討していない
- ◎医療機関対策
- ◎社会保険蒲田総合病院を公的に存続させることを、国、都に要請するべき
- ◎20年の9月末まで、社会保険病院として運営されるが、引き続き、地域医療を損なわない形を検討していくと聞いている
- ◎20年2月に立ち上がった大田区入院医療協議会に区が参加しているのは評価できる。産科対策の再構築についても、3医師会と対策



保育園待機児対策

- ◎大田西地域行政センターと矢口特別出張所管内の待機児解消のため、認可保育園を確保すべきと考えるが
- ◎20年12月には久が原ハートニー保育園が開園し、鶴の木保育園は改築により増員する予定である
- ◎待機児ゼロ達成のための、計画を示していただきたい
- ◎認可保育園の定員拡大、認証保育所の開設支援などにより対応していく
- ◎ものづくりの伝統と技術を継承する若者へ1人年額200万円の支援を具体化する検討を
- ◎個別相談とセミナーを組み合わせ、大田区独自の支援策を行う
- ◎「蟹工船」が共感を持って読まれている。若者の雇用を助ける「ポケット労働法」は、都から版權を借りれば、73万円で1万冊作成できる。増刷し、区施設、駅やコンビニに配布すべき
- ◎都が広く周知しているため、増刷は考えていない

区長 あいさつ (抜すい)

アジアの自然災害

ミャンマーのサイクロン、中国の四川大地震と、アジアは連続して、大きな自然災害に見舞われました。災害の恐ろしさを改めて認識し、被害を拡大させないために、日頃の備え、適切な対処の重要性を肝に銘じております。被災地域の日も早い復興を願うとともに、区民の皆様の安心安全のために、災害への備えを厚くしてまいります。

2010年の新滑走路の供用開始により、国は空港の国際化をさらに加速させる方針を明らかにしました。国際化への期待が高まる中、跡地利用は、区の実情に合わせたまちづくりの喫緊の課題であります。利用については、羽田空港移転問題協議会において、20年3月に「跡地利用基本計画」をとりまとめ、約53ヘクタールの土地利用の方向づけを行ったところです。



区は基本計画を踏まえ、5月に有識者委員会を設置しました。区民の皆様に見ていただき、市街地に最も近い第1ゾーンを中心とした具体的な計画案づくりを進めていきます。

◎基本構想及び基本計画

構想の基本理念として、

点での調査を実施したいと考えております。

◎京急連続立体交差事業

事業の進捗率は、19年度末で約6割となりました。24年度の立体化、26年度の事業完了に向け、一層の努力をしてまいります。

◎自転車対策の強化

区のまちづくりの重要課題として、蒲田・大森・雪が谷大塚各駅の放置自転車の実態を調査しました。その結果から関係機関と連携し、自転車利用の適正化や既存の駐車場の活用を図り、対策を推進していきます。

◎コミュニティバス

19年度に導入方針を定め、候補地を矢口、南馬込、西蒲田地域に絞りました。今後は、地域が支える、最小限の経費で運行できるバスを目指し、検討を重ねてまいります。

◎地域産業政策

区は、高度な加工技術やオンリーワンといわれる開発型企業などが集積する地域でもありますが、近年は工場数の減少等の影響で、活力の低下が懸念されています。こうした状況に対処し、地域産業の活性化に寄与するため、工場集積の維持・発展と工場の立地・操業環境の整備事業に取り組んでまいります。

また、モノづくり集積を維持・強化するため、区で操業を希望する中小製造業の方に対し、区内立地を応援する事業を、6月から実施してまいります。

区民自らが考え、行動する力が区の未来をつくっていくこと、安心と魅力を備えたまちをつくり、次世代へおくとっていくこと、区民一人ひとりが思いやりの心でつながり、優しいまちをつくることをうたうとして、将来像として、「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市おおた」を掲げました。今後は、区民の皆様から寄せられたご意見を基本構想案として提案し、今年度中の基本計画の策定へつなげてまいります。

◎アスベスト対策

20年2月から3月に大森地区で健康調査を実施しました。この調査の際、設置した専門委員会から、救済が受けられない方の定期的な受診機会の提供、区単独では限界のある方への救済措置を国へ働きかけるなどの提言がありました。区は、これを踏まえ関係機関と連携を図り、具体策を早急に検討し実施してまいります。

昨年12月に区内東部3地点で大気中のアスベスト濃度調査を行いました。検査結果は、区民の健康に影響がないことを確認するため、夏と冬の2回、同地

「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定を求める意見書

現在、日本社会においては、急速な少子・高齢化により、年金・医療・福祉などの社会保障制度はもとより、労働環境にも大きな変化の波が押し寄せています。また、近年の構造改革により、経済、雇用、産業などの様々な分野に格差が生じ、「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」「偽装請負」など、労働環境を取り巻く新たな社会問題が顕在化し、今や日本全国に広がる共通の課題となっています。

こうした中、自ら出資し、組織を協同で経営し、自ら働き、地域の課題を地域住民自身が解決する「協同労働」が注目され始めています。しかしながら、日本では、社会的認知や理解も低く、こうした法的根拠がないことから、社会保険や雇用保険の適用を受けられずに、不安定な活動とならざるを得ない状況にあります。

地域に根ざした、住民による住民主体のまちづくりを創造するこの「協同労働」は、働くこと、生きることに困難を抱える人々が、社会連帯の中で仕事をつくりだし、社会への参加の道を開くものであります。「協同労働の協同組合」は、地域の再生、地域の公的サービスを自ら主体的に担うときなど、大きな力を発揮するものと期待されています。

すでに欧米では、働く仲間同士が協同し、主体性を高め合い、力を発揮し合う新しい働き方として、労働者協同組合（ワーカーズコープ、ワーカーズコレクティブ）についての法整備がなされています。また、日本においても、国会での法制化の検討が始まっています。

よって、大田区議会は、国会及び政府に対し、社会の実情を踏まえ、就労の創出や地域の再生への有力な制度として、「協同労働の協同組合法（仮称）」を速やかに制定するよう強く要望致します。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出致します。
平成 20 年 6 月 16 日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
厚生労働大臣
経済産業大臣 あて

大田区議会議長名

※そのほか各委員会で継続審査中です。

（仮称）大森北一丁目開発に福祉施設等の設置を求める陳情（不採択）

▼羽田空港対策特別委員会
羽田空港跡地に「平和館」の設立を要請することに
関する陳情（継続）

（仮称）大森北一丁目開発に福祉施設等の設置を求める陳情（不採択）

▼開発・観光対策特別委員会
佐伯栄養学校裏山に続き、西馬込車両工場跡地を公園・緑地用地として購入を依頼する陳情（不採択）

（仮称）大森北一丁目開発に福祉施設等の設置を求める陳情（不採択）

▼開発・観光対策特別委員会
佐伯栄養学校裏山に続き、西馬込車両工場跡地を公園・緑地用地として購入を依頼する陳情（不採択）

（仮称）大森北一丁目開発に福祉施設等の設置を求める陳情（不採択）

▼開発・観光対策特別委員会
佐伯栄養学校裏山に続き、西馬込車両工場跡地を公園・緑地用地として購入を依頼する陳情（不採択）

会派の異動・変更がありました。

会派「自由民主党大田区議団」所属議員の変更（6月10日）

会派名	所属議員			
自由民主党 大田区議団 略称：自民	永井 敬臣	田中 一吉		
	水井 達興	高瀬 三徳		
	伊藤 和弘	塩野目 正樹		
	湯本 良太郎	鈴木 隆之		

新しい会派（6月10日）

会派名	所属議員
自由民主党 大田区議会 略称：自民大田	近藤 忠夫



傍聴をお待ちしております

議会活動にふれるもつとも身近な方法に傍聴があります。本会議の傍聴は11階の傍聴受付までおいで下さい。席は76席あります。その内訳は、いす席69席、車いす用スペース3席、親子席4席となっています。

特別委員会中間報告（要旨）

※平成20年第1回臨時会で報告された内容の要旨です。報告書は大田区議会ホームページで公開しています。

大田区議会ホームページアドレス
<http://www.city.ota.tokyo.jp/gikai/>

交通問題調査特別委員会

本委員会は、京浜急行線連続立体交差事業の推進及び区民にとって安全で快適な生活基盤としての交通体系の整備に向けて、調査研究を行ってきました。

京急連続立体交差事業が平成 26 年度の完成に向け着々と進められている中、区はこの連立事業を沿線地域再整備の契機としてとらえ、地元関係者とともに、積極的にまちづくりに取り組んでいます。京急蒲田、糀谷、雑色の各駅では、地権者が研究会や組合等を組織し、地域の合意形成を図りながら、再開発によるまちづくりを推進しています。しかしながら、地域によっては、再開発に反対する声も未だ残っており、議会は区に対し意見調整を強く要望しています。

交通網の整備では、コミュニティバスへの需要が高まる中、区は大田区緊急 2 か年計画に基づき、「コミュニティバス導入検討会」を組織し、導入モデル地域を矢口地区に決定しました。コミュニティバスについては、積極的に導入すべき事業と理解する一方、採算性の面から将来的にその運行を継続していくことが大変難しいものと考えられ、導入地域に主体的姿勢と運行を維持していく創意工夫が求められます。

一方、新空港線「蒲蒲線」及びエイトライナーについては、地域の活性化にも寄与するものとして、一刻も早い事業化が望まれており、事業スキームの更なる検討が必要とされています。

委員会は、地域の将来を見据えた、交通網整備、まちづくりが積極的に推進されるよう、更なる調査・研究の必要性を強調します。

羽田空港対策特別委員会

本委員会は、羽田空港の空港機能、跡地利用、空港周辺及び臨海部に関する事業等について、調査研究を行ってきました。

羽田空港は、再拡張事業において、第 4 滑走路、国際線地区等を整備しています。

再拡張により発着容量が約 1.3 倍に増加することから、国際競争力の強化、地域間交流の飛躍的な増大等の効果が期待されます。

委員会では、新滑走路の耐震性や空港の交通量の問題、環境影響問題、地域住民への安全配慮等についての質疑が出されました。

区は、現在、沖合展開事業や再拡張事業により発生する空港跡地について、隣接する第一ゾーンを中心とした利用計画の策定に取り組んでいます。

区は、利用計画を地域・人・企業等の活性化につなげる施策として充実させなければなりません。委員会では、交通アクセス問題、緑地公園、広域避難場所等の様々な質疑、意見が出されました。

区は、基本調査を踏まえ、今後、空港周辺及び臨海部全体のまちづくりの将来像を描く空港臨海部整備基本計画を策定します。

策定にあたっては、区民、事業者、在勤者、空港利用者等の意向も考慮し、臨海部全体の活性化に繋がる計画が求められます。

羽田空港の発展が、地元地域全体の発展に取れんするよう、委員会は、今後も国や都に対して区民の思いを代弁し、更なる実現を目指していきます。

防災・安全対策特別委員会

本委員会は、自然災害及び複雑化する危機に対し、区民が安全・安心に暮らせるまちづくりを実現するため、調査研究を行ってきました。

区は、防災力の一層の向上を目指し大田区地域防災計画の修正案を作成しました。総合防災訓練は、初動期の発災対応型の訓練を中心に実施しました。

また、新潟県中越沖地震に伴い区は、職員派遣や物資搬送を行い、住民の安全の確保等を行いました。この経験をもとに、区は講習会を開催し、被災地の状況や支援活動を通じて得た教訓を区民に伝えることで、防災意識や防災行動力の更なる向上につなげました。

委員会では、情報収集体制の充実、地域のなかで顔の見える関係性、コミュニティを築いていくことの重要性について意見がだされました。

区では、事件防止のため「振り込め詐欺撃退用安心カード」の配布や、区民向けに不審者情報と防犯・防災情報を加えた安全・安心全配信メールサービスを実施しました。

区民一人ひとりが、自助、共助の意識のもと、危機管理対応力を強化する一方、区は、個人や地域、企業、団体など多様な主体により働きかけることで、災害被害および危機を軽減することが求められています。

今後も委員会は、区の取り組みに対して多様な視点から審議、提言を行うため一層の調査・研究を行っていきます。

議場の略図と議席

公明 大田区議会公明党 5744-1488	共産 日本共産党大田区議団 5744-1477	緑 大田区議会緑の党 5744-1479
大田自民 大田区議会自民党 5744-1469	民主 大田区議会民主党 5744-1475	社民 社会民主党・大田区民の会 5744-1476
自民 自由民主党大田区議団 5744-1480	ネ無自 ネット・無所属・自由連合 5744-1478	自民大田 自由民主党大田区議会 5744-1617

傍聴席(階上)														
1	2	3	10	11	19	20	21	22	31	32	33	49	50	
4	5	6	12	13	23	24	25	26	34	35	36	47	48	
7	8	14	15	16	27	28	29	30	38	39	37	45	46	
9	17	18							40	41	42	43	44	
※数字は議席番号														
演壇														
理事者席			議長席			事務局長			理事者席					

永井 敬臣 自民	田中 一吉 自民	水井 達興 自民	河津 章夫 大田自民	海老澤 信吉 大田自民	溝口 誠 公明	荒川 善夫 公明	高橋 博 公明	飯田 茂 公明	山崎 勝広 民主	岸田 正 民主	都野 圭子 民主	藤原 幸雄 共産	大竹 辰治 共産
高瀬 三徳 自民	伊藤 和弘 自民	塩野目 正樹 自民	松原 秀典 大田自民	安藤 充 大田自民	富田 俊一 公明	清波 貞子 公明	古山 昌子 公明	渡部 登志雄 公明	木村 勝 民主	柳ヶ瀬 裕文 民主	黒川 仁 民主	金子 悦子 共産	和田 正子 共産
湯本 良太郎 自民	鈴木 隆之 自民	岸田 哲治 大田自民	大森 昭彦 大田自民	松原 茂登樹 大田自民	松本 洋之 公明	丸山 かよ 公明	岡元 由美 公明	勝亦 聡 公明	荒木 秀樹 ネ無自	犬伏 秀一 ネ無自	森 愛 民主	菅谷 郁恵 共産	黒沼 良光 共産
近藤 忠夫 自民大田		鈴木 康文 大田自民	押見 隆太 大田自民						奈須 利江 ネ無自	野呂 恵子 緑	西村 健志郎 社民	佐藤 伸 共産	清水 菊美 共産

みんなで徹底しよう「三ない運動」

贈らない! 求めない! 受け取らない!

お歳暮やお年賀 	入学祝・卒業祝 	病気見舞い 	秘書等が代理で出席する場合の結婚祝 	秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典
葬式の花輪・供花 	落成式・開店祝の花輪 	町内会の集会や旅行などの催物への寸志や飲食物の差入 	お祭りへの寄附や差入 	地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差入

公職選挙法の規定では、区議会議員が選挙区内の人に、お金や物を贈ることを禁止しています。また、有権者が寄附を求めることも禁止されています。団体主催の催し物等への案内の際、実費相当分の会費を徴する旨の明示がない案内状で、議員に会費等を求めることや議員が金銭を支払うことは、罰則をもって禁止されています。つきましては、実費相当分の会費をご明示くださるようお願い申し上げます。